

麦の禾

宮坂静生



湧き上る若葉よ冥き目を沈め
まくなぎの隙に無数の咎浮かぶ
夏山の老け込みこぶの駱駝形
待乳山今戸へ沈む青葉かな
六角は日傘の黙よ待乳山
浅草に日暮のなかり鳥の子



削節一とさし舞へる冷奴
熱湯の粘りや鱧のよろこべる
憲法に鋼の勁さ麦熟るる
憲法の地熱を讃へ麦の禾
玉葱は厨に坐る生仏
煉獄のさなか玉葱厨に芽
木乃伊とは灼けし干鱈よポルトガル